

博士後期課程に関する意識調査

実施期間： 2024年10月7日(月)～2024年12月1日(日)

令和7年2月12日

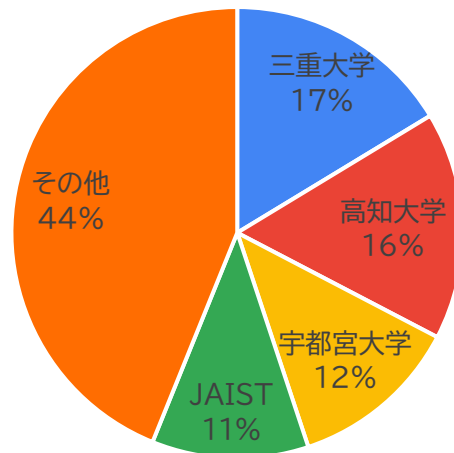
回答者の属性

回答回収数と所属

回答回収数 : 98名

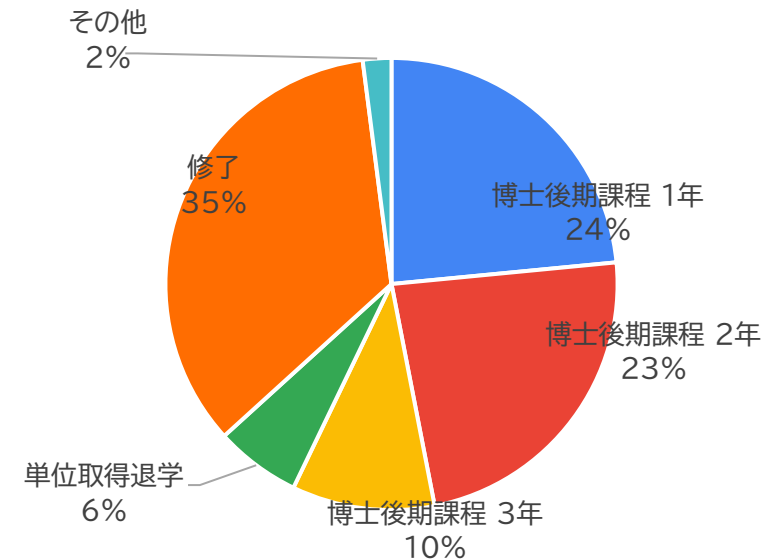
(1)大学別

大学院リーグ 55名
社会人(リーグ外)43名



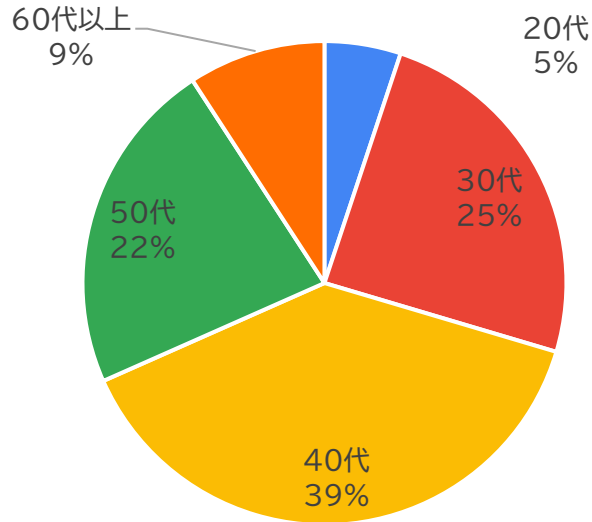
(2)学年／修了

博士後期課程 1年 23名
博士後期課程 2年 23名
博士後期課程 3年 10名
単位取得退学 6名
修了 34名
その他 2名



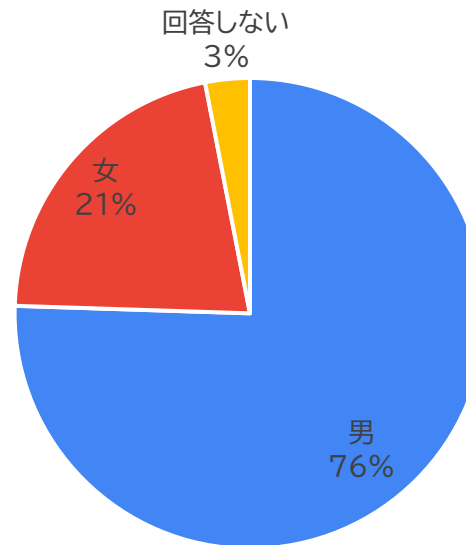
回答者の属性

●年代



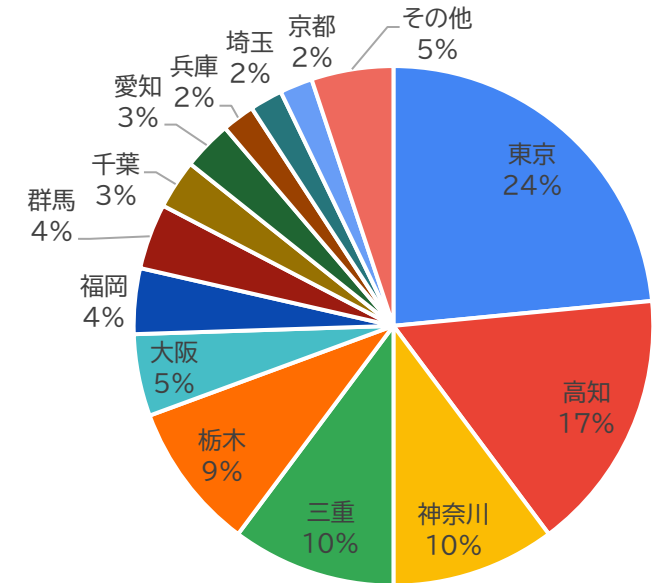
20代	5名
30代	24名
40代	38名
50代	22名
60代以上	9名

●性別



男	74名
女	21名
回答しない	3名

●居住地

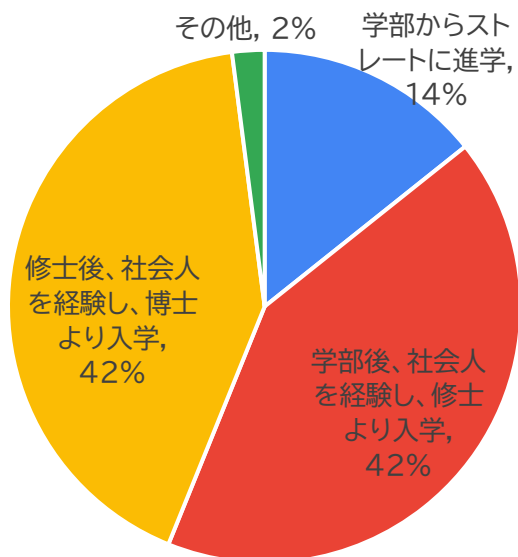


※その他(各1名)
北海道、宮城、茨城、石川、滋賀

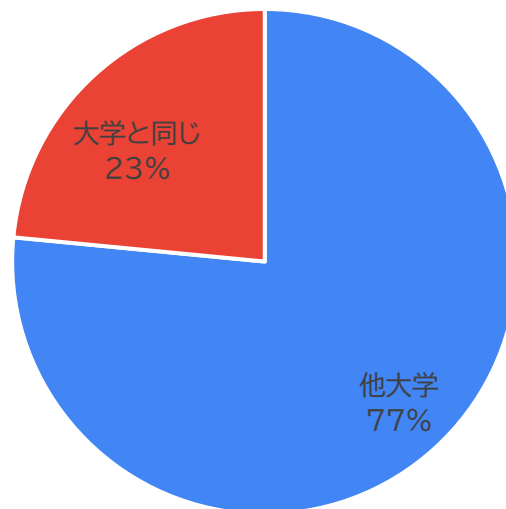
- ・年代は、40代が4割、続いて30代、50代がそれぞれ2割であり、ほとんどが社会人現役世代である。
- ・男女別では、男性が8割、女性が2割となった。

進学に関する情報

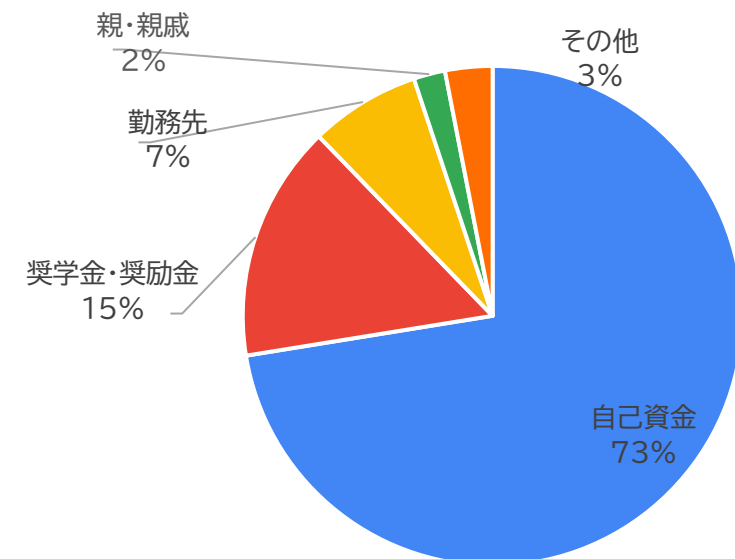
●博士後期課程入学ルート



●進学した大学院



●大学院進学・在学に係る費用の主な出資元



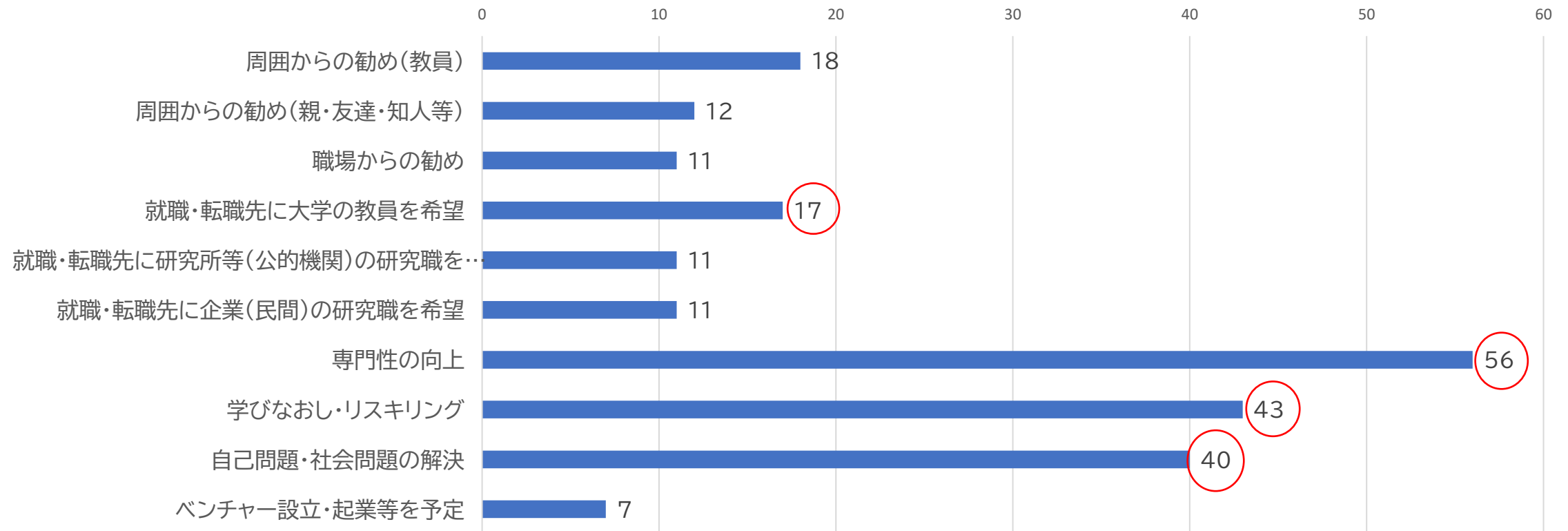
- ・学部後→社会人経験→修士より入学者は42%、修士後→社会人経験→博士より入学者42%
- ・回答者の77%が出身大学とは違う大学に進学している。
- ・回答者の73%は、自己資金によって進学・在学しており、勤務先資金からの入学者は7%にとどまることから、「学び」へのモチベーションが高いことがうかがえる。

博士後期課程に対する意識調査

大学院進学目的 (複数回答可)

単位：人

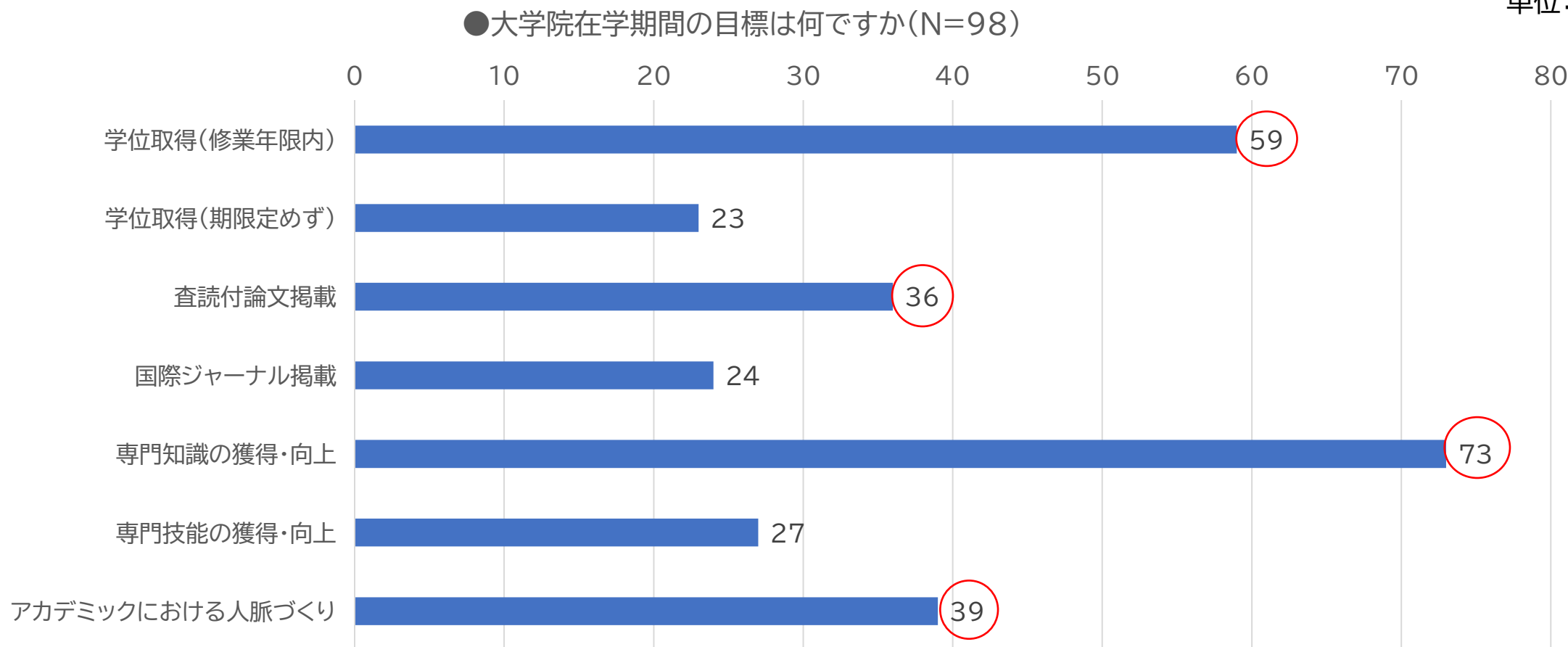
●大学院に進学した目的は何ですか(N=98)



「専門性の向上」「学びなおし・リスキリング」「自己問題・社会問題の解決」を目的とする回答が多い。また回答者の2割弱が「就職・転職先に大学の教員を希望」するためと回答している。

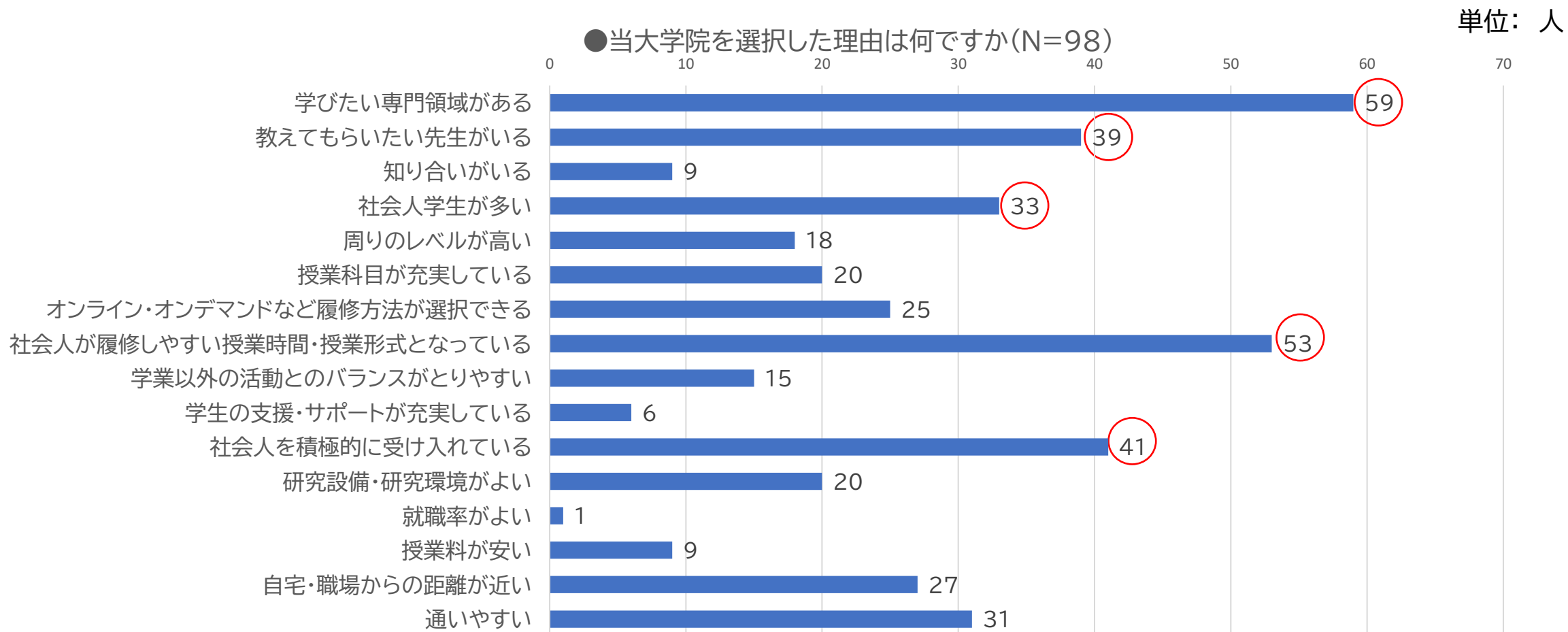
大学院在学期間の目標(複数回答可)

単位：人



「専門知識の獲得・向上」「学位取得(修業年限内)」に続き、「アカデミックにおける人脈づくり」「査読付論文掲載」も目標となっている。

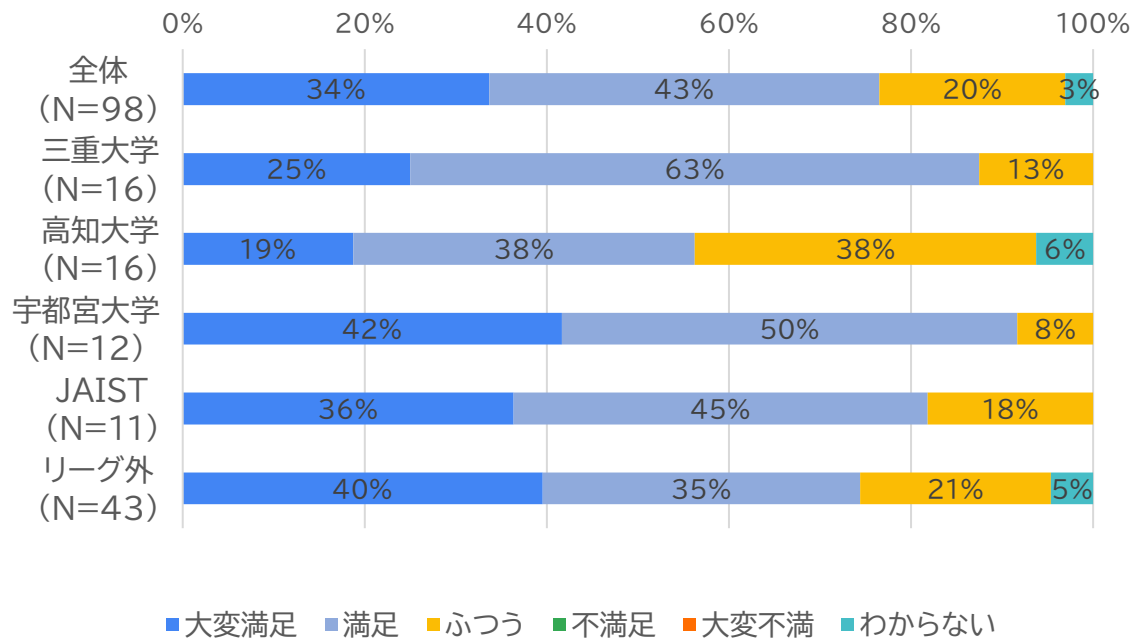
当大学院を選択した理由(複数回答可)



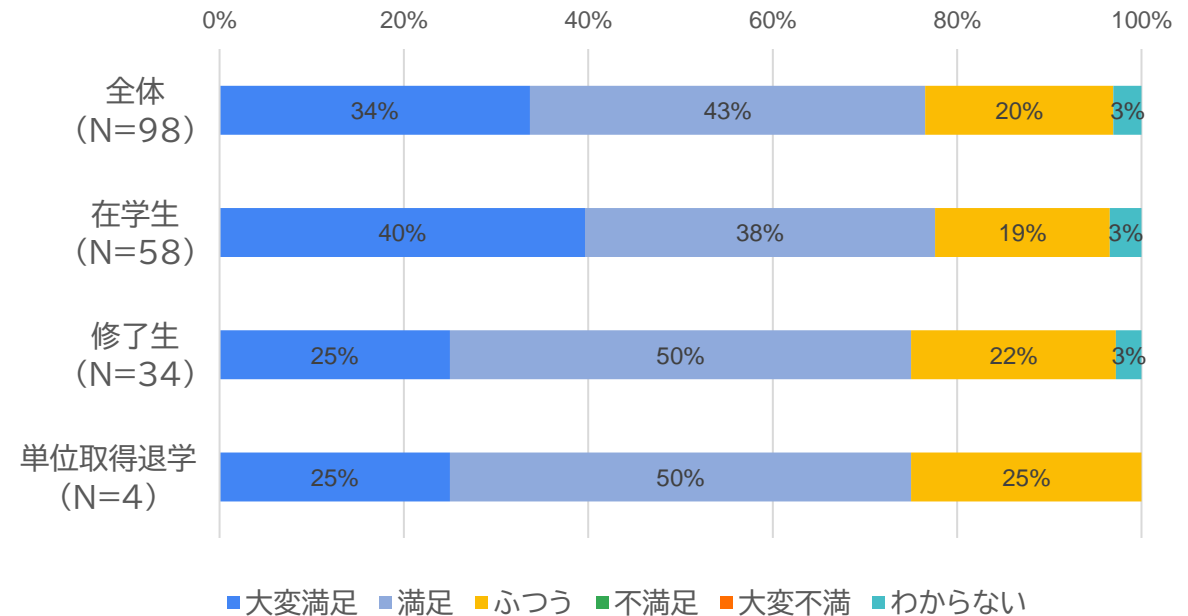
「学びたい専門領域がある」ことはもちろんのこと、「社会人が履修しやすい授業時間・授業形式」「社会人を積極的に受け入れている」「社会人学生が多い」等、社会人に配慮したカリキュラムや環境、履修方法が選択理由となっている。また「教えてもらいたい先生がいる」の回答も多い。

大学院教育への満足度

●大学院教育への満足度(大学別)



●大学院教育への満足度(在学/修了別)



回答者の8割弱が「大変満足」「満足」と答えており、ネガティブな回答はわずかであった。「大学別」では若干のバラつきはあるものの、おおむね満足度は高いと言える。「在学/修了生別」でも同様である。

大学院教育への満足度の理由①

【大変満足／満足】

●指導教員の丁寧な指導／手厚いサポート

- ・学位取得まで手厚くサポートしていただいた 丁寧にご指導いただきました。
- ・先生方のサポートがあり、修了できたこと
- ・手厚いサポートがあるため
- ・教授への相談が密にできる
- ・指導教授のサポート体制
- ・学位取得までの指導が的確だった。
- ・オンラインや個別で対応してくださる 指導教員の細やかなサポートと、知識の高さ、深さ。
- ・主査が素晴らしかった。人生の恩人です。
- ・社会人をリスペクトし、共に進む雰囲気教授陣が多かった(例外あり)

●指導者が素晴らしい／幅広い分野の先生から学べた

- ・Good teacher
- ・学びたい内容を指導してもらえる指導教員がいたことと、専門外の教員からも多角的な指導をいただけたことから。
- ・指導教授が研究領域の中、世界的な重鎮であり、豊富な知識と業界経験を勉強することができる。
- ・素晴らしい指導者
- ・興味深い分野 幅広い分野の先生方から学ぶことができた
- ・幅広い分野の先生方から学ぶことができた
- ・先生が素晴らしいです。授業も素晴らしいです
- ・講義内容、講師が充実している
- ・教育熱心な方が多い

●学びに加えて、ゼミ仲間等、新たな人脈ができた

- ・多様性のあるゼミメンバーとの学びの場
- ・同業者の在籍が多い
- ・会社の延長では得られない知識、人脈ができたこと
- ・刺激的な環境であったこと
- ・学びたいと思っていた以上の学びがあったとともに人脈ができたため
- ・授業科目の内容、先生の質、動機の高い学生の中で、価値のある学びができていると感じている
- ・クラスで学ぶことの貴重性を感じており、実現できているため
- ・レベルの高い人材と共に学び合えるから
- ・楽しい仲間と研究に没頭できたから

●専門性を高めることができた(できる)から

- ・専門性を高めることができたから
- ・興味深い分野
- ・講義の中で、必要とする知識を学ぶことが出来た。
- ・自身の専門外の科目について、体系的に学べるから
- ・公務と学業の両立が図れ、研究内容も充実しているため
- ・想定していた通りの学びが得られた。
- ・自分が働いているだけでは身に付く事が出来ない知識を得れている。

●学位を取得できた

- ・貴重な知識、経験を得ることができ、また無事に博士号を取得することができたため
- ・とにかく学位が取れた。
- ・1年プラスだったが博士号を取得できたから
- ・論理的思考能力の習得よりも学位の取得が目的だったため
- ・合格し、学べて感謝している。

●仕事に役立つ／キャリア形成に役立つ

- ・役に立っている／即実践できる
- ・研究を通じて、本業を行う際にも考え方等参考にすることができた。
- ・ケースメソッドで実践力が身につく
- ・そこそこ通いやすく、学びをビジネスに適用できた。
- ・実務に応用できる知識・思考を身につけることができています
- ・学位だけでなく、実務家教員としてのキャリア形成に有益な視点を得ることができたため。

●視点が変わった／物事の本質を見極める力がついた

- ・仕事、世の中の景色が変わりました。
- ・多くの知識を学べたことも大きいですが、物事の本質を見抜こうとする思考体力が大きく向上した。
また、世の中をよくしたいと本気で考えている仲間存在は、とても刺激になり生活スタイルも良い方で激変した。
- ・視座を変えたいという動機が大きかったが、アカデミアの視点、またビジネスの現場からの教員の方による学際(学問と実際)との考えに触れて、物事のとらえ方やその深さ・広さに大きな変化があり、当初、考えていた以上の成果を経験した。また、その後の活動においても、終了年度を超えた関係が構築され、現在でも、その学びの環境は継続されている
- ・通学前よりも、思考のスピードや量が向上したことを、実感できるため

大学院教育への満足度の理由②

【大変満足／満足】(続き)

●論文をまとめることができた

- ・指導教官の指導の元、論文執筆がスムーズに行われている
- ・指導教員に恵まれ、自分のそれまでの研究を博士論文としてまとめることができた。

●目標を達成できた／期待していた成果が得られた

- ・目標達成(第一歩)ができたから
- ・期待していた成果等が得られたため
- ・自分の成長が感じられるから。

●その他

- ・実験施設が近くにあるため、分析等が円滑に行える環境にあるため
- ・適度な負荷で講義を受けることができる。
- ・学習内容に関しては大変満足だが、やはりお金がかかるのが大変なため「満足」とした。

【ふつう／わからない】

●自発的に動くことが必要だった／もっと指導を受けたかった

- ・学習そのものは自主的に行っており、与えられるというより取得しに行くという姿勢だった
- ・大学院生ということもあり、教育を受けるというよりは自発的に動いていくことが必要だった。
- ・大学院における教育が想像と異なった もう少しきめ細やかな指導を希望するため
- ・規模の小さい研究室だったため 内容は良いが、仕事で時間的制約が多く、課題の負担が大きいため
- ・当時は教育を受けているという実感がありませんでした。
- ・博士後期課程における社会人のかかわり方は、授業を通じて知識を授けられるようなものではなく、内部進学生とも立場が異なる。どうあれば良いか不明であるため評価できない。

●その他

- ・博士課程における新たな学びは少なく、既知の学びを再構築することが多く、新たな学びがもう少し欲しかったことから、ふつうとしました
- ・これ以上負荷が高くなると、通常業務に影響がある
- ・通いやすさを重視したのですが、人が多すぎるので人脈構築に苦労しているから
- ・学んだことを活かしていない部分もあるから
- ・大学院の授業の中には、本当に受講する必要があるのか意図がわからないような授業があるから。
- ・単位がとりにくい ・自由な校風 ・不満な点はない

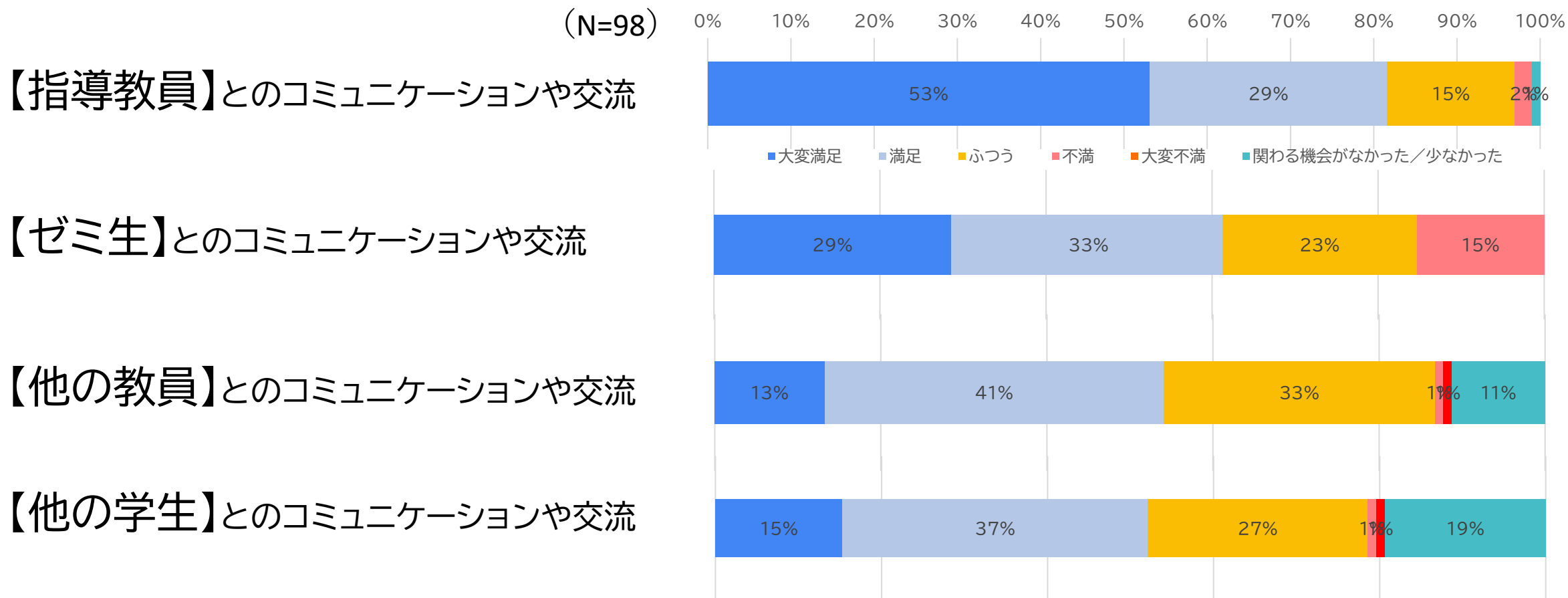
●【大変満足／満足】の理由は

- ・指導教員の丁寧な指導／手厚いサポート
- ・指導者が素晴らしい／幅広い分野の先生から学べた
- ・専門性を高めることができた(できる)
- ・学位を取得できた ・論文をまとめることができた
- 等の学びの内容や指導体制に加えて
- ・仕事に役立つ／キャリア形成に役立つ
- ・ゼミ仲間等、新たな人脈ができた
- ・視点が変わった／物事の本質を見極める力がついた
- 等、学びの成果として得られた資産や成長実感が挙げられている。

● 少数ではあるが【ふつう／わからない】の回答理由は

- ・自発的に動くことが必要だった
- ・もったきめ細やかな指導を受けたかった
- 等、自ら研究を進めるというよりも、もっと教育されたかったといった意図の理由がみられる。

教員や他の学生とのコミュニケーションや交流は？

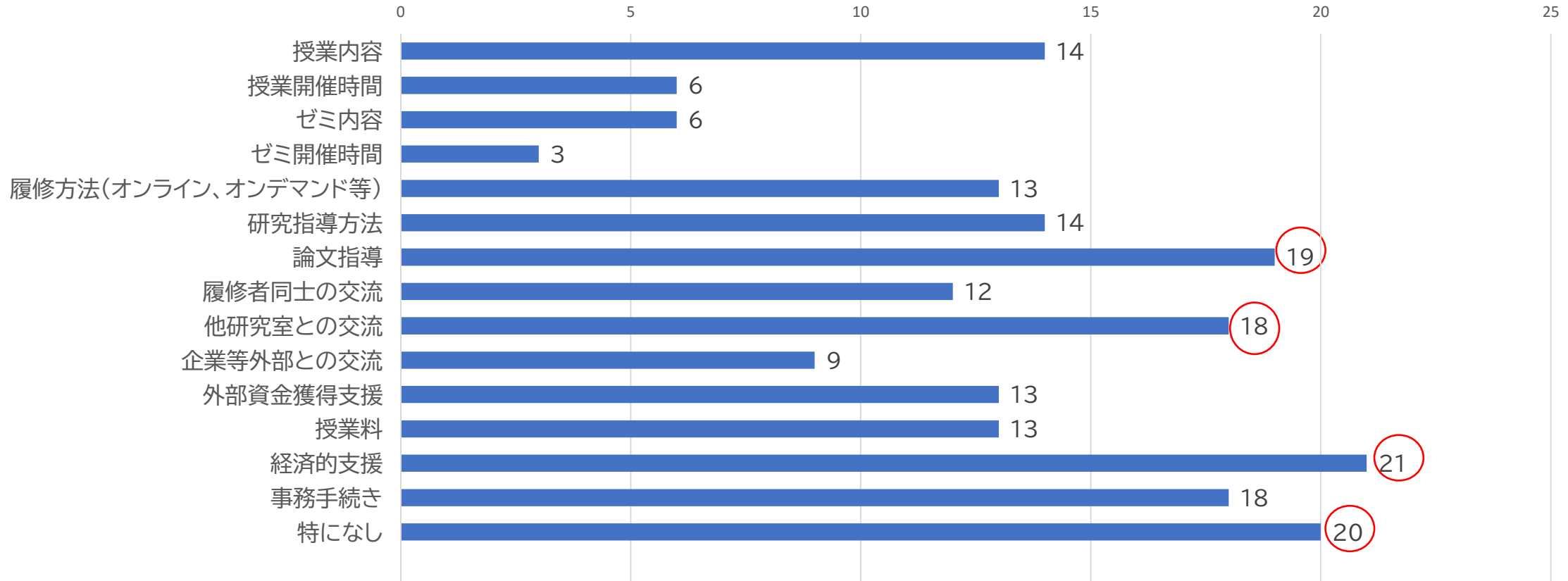


【指導教員】とのコミュニケーションや交流については8割、【ゼミ生】とでは6割が満足しているものの、【他の教員】や【他の学生】とのコミュニケーションや交流についての満足度は下がり、「関わる機会がなかった／少なかった」の回答もみられる。

改善を要すると思われる点(複数回答可)

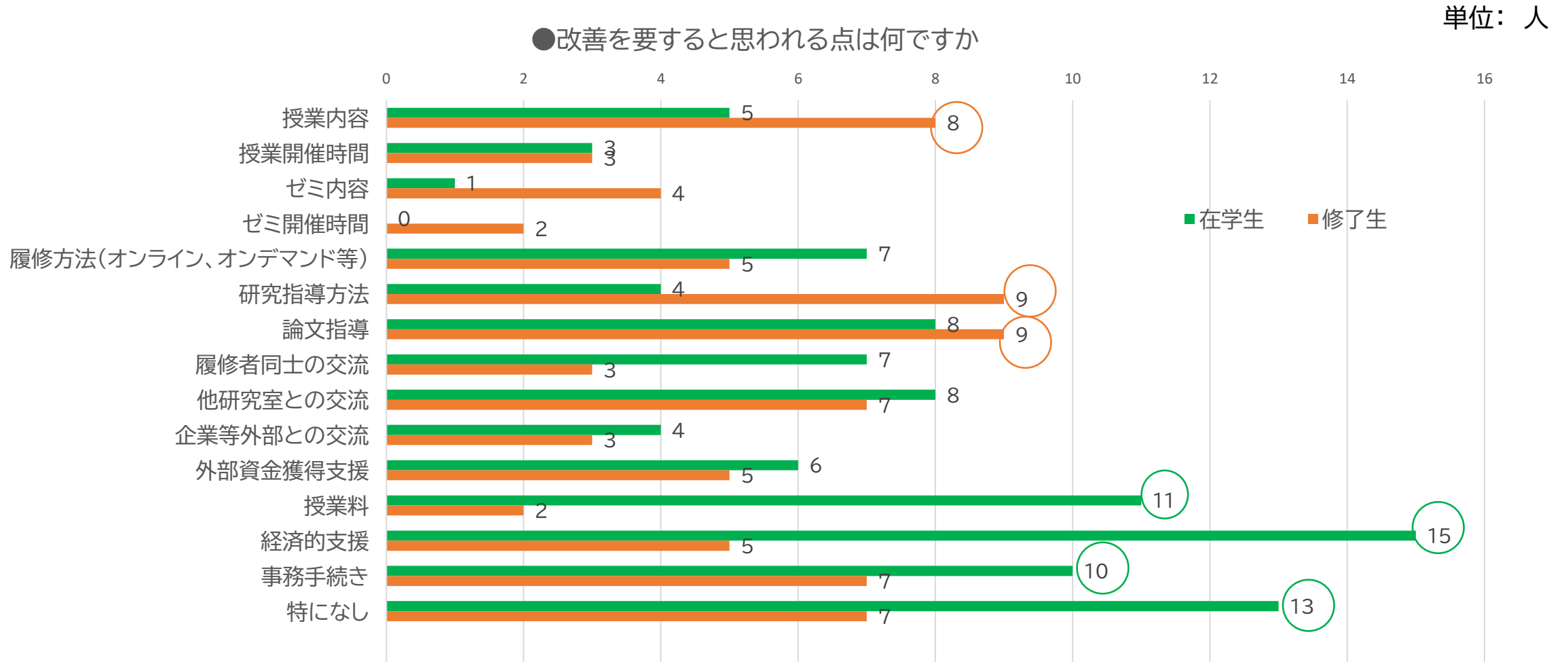
単位: 人

●改善を要すると思われる点は何ですか(N=98)



「経済的支援」の改善を求める回答が最多であり、次に多いのが「特になし」の回答である。「論文指導」「他研究室との交流」についての改善を求める回答も多い。

改善を要すると思われる点(複数回答可)



在学生は「経済的支援」が多く、次に順に「特になし」「授業料」「事務手続き」となっている。

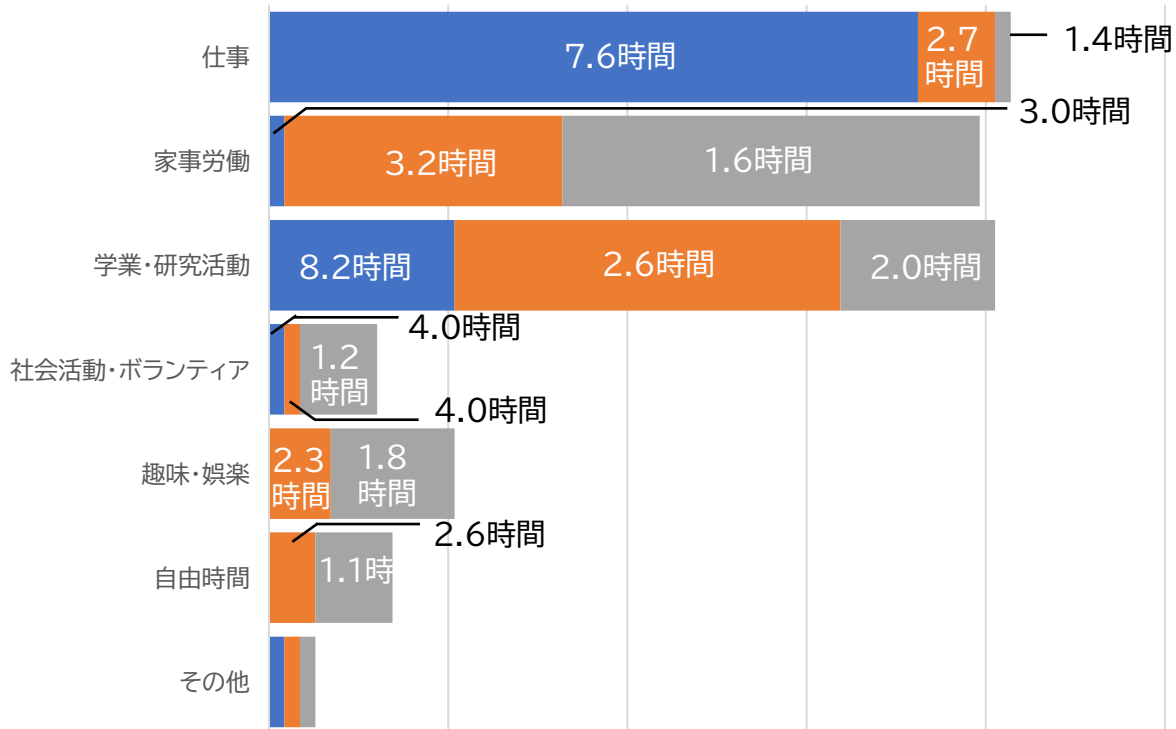
修了生は「研究指導方法」「論文指導」「授業内容」が上位の3項目であり、「他研究室との交流」「事務手続き」「特になし」が続いている。

活動時間の使い方(在學生／修了生別)

在學生(N=58)

■1位 ■2位 ■3位

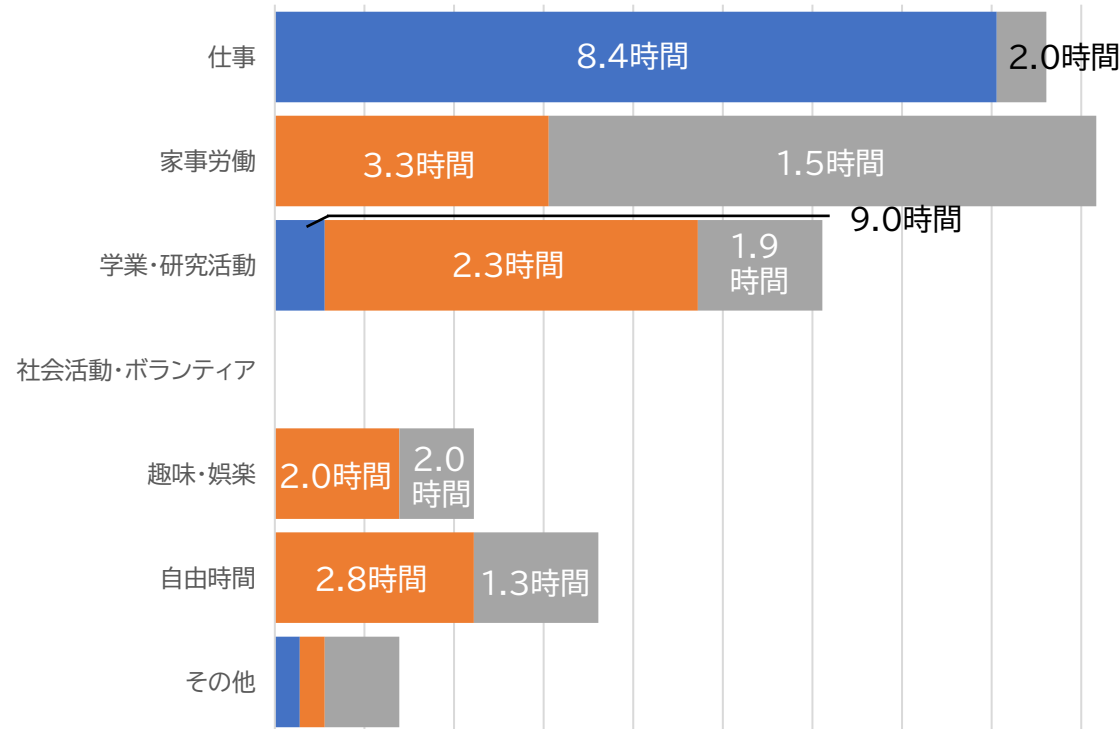
0% 20% 40% 60% 80% 100%



修了生(N=36)

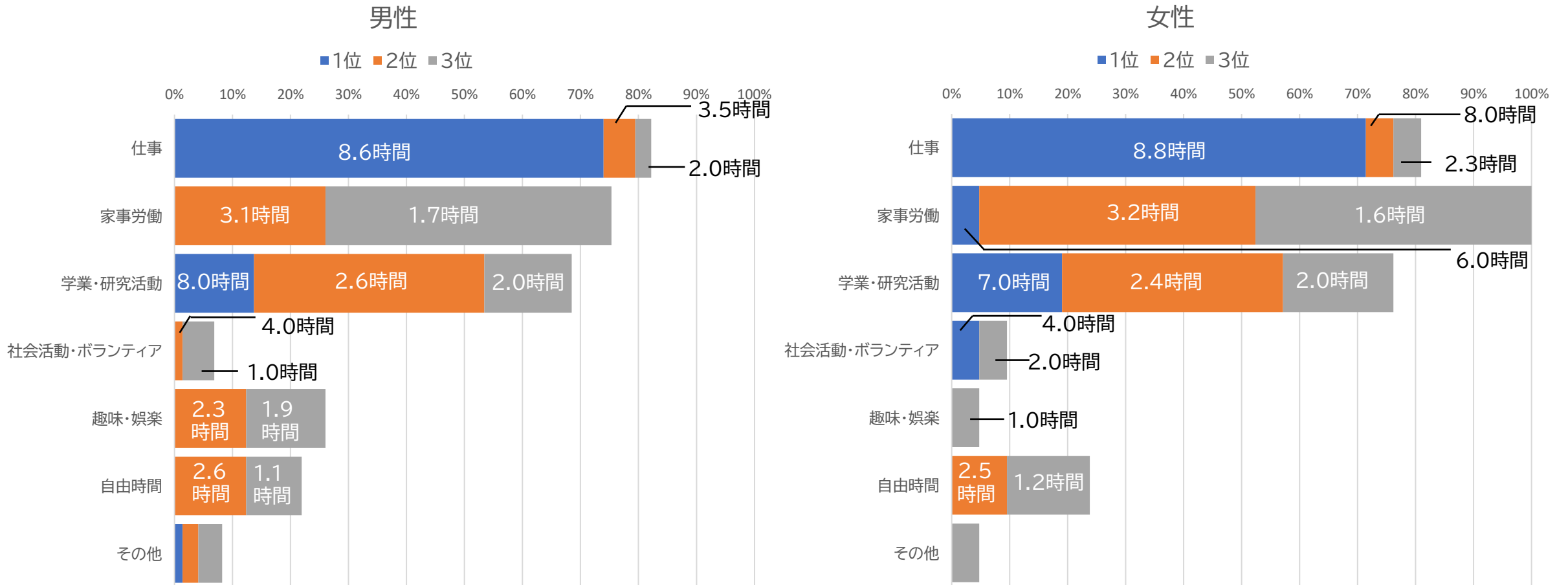
■1位 ■2位 ■3位

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



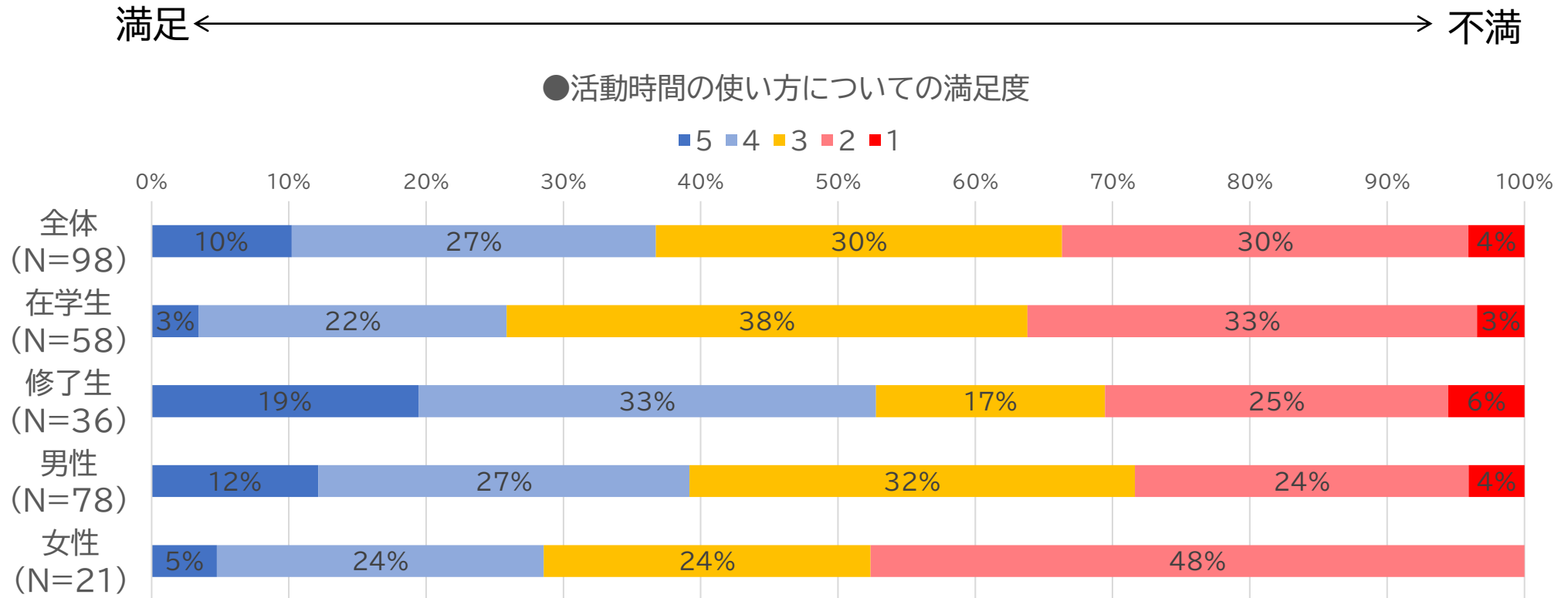
在学生の活動時間の1位は「仕事」であり、社会人学生が多いことがうかがえる。「学業・研究活動」を1位と答えたのは進学生だと考えられるが、1位に費やしている時間を比較すると「学業・研究活動」の方が多い。修了生では活動時間を「学業・研究活動」に費やす割合が減るが、6割は学業・研究を続けていると考えられる。

活動時間の使い方(男女別)



活動時間の1位-3位の項目は変わらないが、男性では2位「学業・研究活動」、3位「家事労働」であるのに対し、女性では2位「家事労働」、3位「学業・研究活動」と2位と3位の順位が反転している。また女性の「家事労働」は100%となっている。

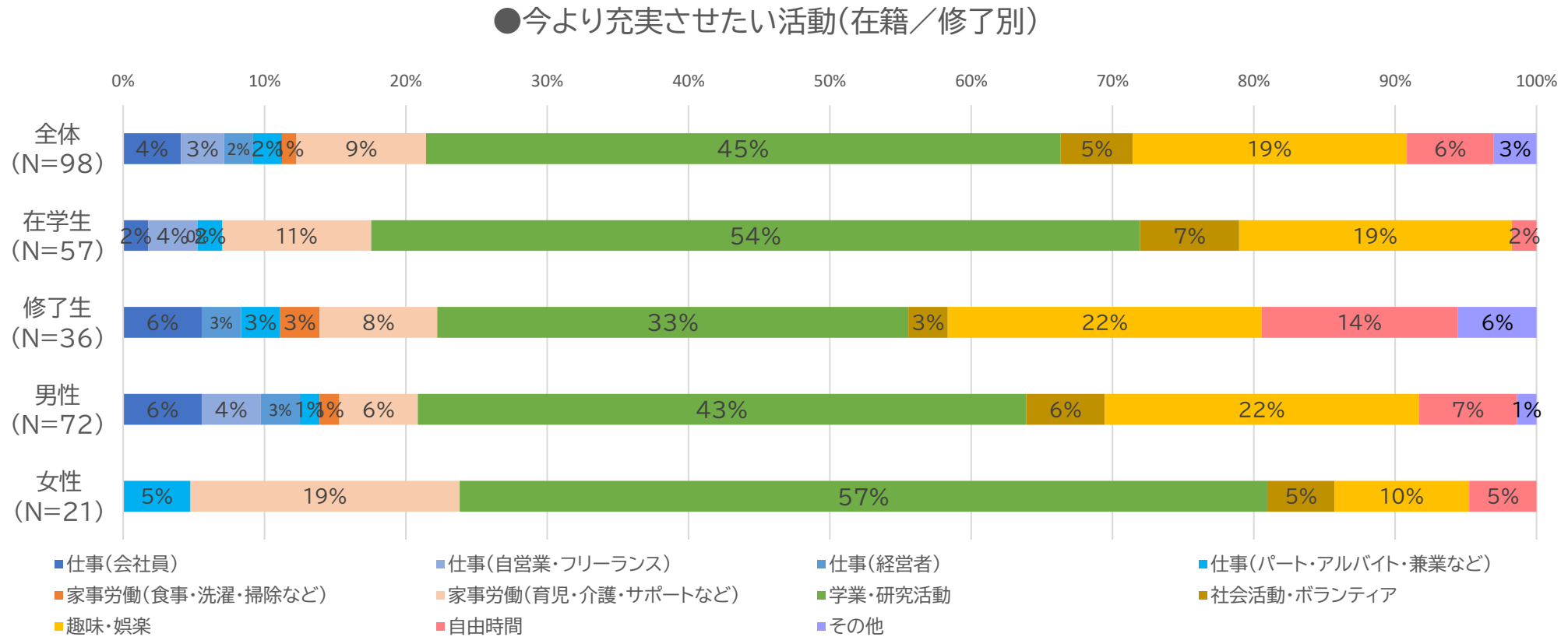
活動時間の使い方についての満足度



在學生／修了生別にみると、在學生の満足度がプラス・ニュートラル・マイナスがそれぞれ同等であるのに対して、修了者では半数以上がプラス回答である。

男女別では、女性の半数がマイナス回答であることから、女性にとっては仕事や家庭に加えて学業を行うことの困難さがうかがえる。

今よりも充実させたい活動は



どの区分でも今よりも充実させたい活動の1位は「学業・研究活動」である。在学生・修了生・男性の2位は「趣味・娯楽」であるが、女性の2位は家事労働(育児・介護・サポートなど)である。「学業・研究活動」に時間をかけたいという希望は高いが、「学業・研究活動」の時間を捻出するために削減しているのが2位の項目であると考えられる

今よりも充実させたい活動とその理由(在学生)

●学業・研究活動

- ・研究が思うように進んでいないから／研究を軌道に乗せたいから／研究を進めるため
- ・論文を完成させたいから
- ・3年で学位をとりたいため。
- ・せっかく大学院に来ているので存分に研究したいから／研究をしたくて大学院に進学したため
- ・知識の習得／To learn／学びたい内容が多い／知識を増やしたい
- ・研究に専念したい
- ・公務を8時間程度に控え、研究活動の時間を多くしたい
- ・研究の成果を発信したいから。
- ・他の緊急性あることに押されてしまい、重要度高いことが遅くなる
- ・体調不良による休学以後、十分にとることが難しくなったから
- ・限られた時間を有効活用していきたいから
- ・締切前に焦ってしまうから
- ・課題が多いから
- ・時間配分がむずかしく学びが不十分
- ・もっとしっかり予習復習をしたいが時間が取れない／復習する時間を長く確保したい
- ・大学院の卒業を間近に控え、卒業後の進路について考える時間を確保したいから
- ・社会人学生で自費である以上、仕事と生活が最優先です。残った時間を学業に割り当てるといふ振り分けを行わざるを得ないためには学びが不十分になると感じています。経営者であれば致し方ないですが、サラリーマンであれば、将来の仕事のパフォーマンス向上を見据え、就学中の勤務時間を配慮するような制度があってもよいのではないかと思います。日本企業は保守的なので、各企業に任せてはそういう制度は確率されず、就学率も伸びないと思います。私の周りでも、特に結婚して子供のいる人(男女問わず)で就学を諦める声を聞きます。学び、ひいては将来のキャリアを優先させなければ未婚を選択する、という少子化への悪循環にも繋がっていると感じます。

●仕事

- ・仕事(会社員)より経営層に近いところで業務を遂行したい
- ・仕事(自営業・フリーランス) 生活のため
- ・仕事(自営業・フリーランス) 仕事が忙しい
- ・仕事(パート・アルバイト・兼業など) 収入源があれば経済的に楽だから

●家事労働(育児・介護・サポートなど)

- ・親が要介護
- ・子どもと過ごせる時間が少ないため
- ・家族との時間を増やしたい、それにより精神的な満足度が高まる。
- ・育児の時間を削り勉強しているので、家族との距離が出来ている。
- ・学業を優先させてもらっているので、卒業はしっかりと返したい。

●社会活動・ボランティア

- ・社会参加
- ・To get experience about the culture and the society of Japan
- ・会社や家以外での活動場所をつくっていききたいため
- ・仕事と研究内容の領域が一致しておりますので、とても幸せと感じている。ただし、仕事と研究活動のプレッシャーの解消について、運動時間を増やしたいと思います。

●趣味・娯楽

- ・趣味を楽しむ時間がそれほどないから。
- ・精神的な安息に充てられる時間が欲しい
- ・卒業後にやりたいことを決めており、早くそれを実行したい。
- ・興味分野を広げたい
- ・2年間、全ての時間を削ってきたため。
- ・大学院入学後、思いっきり趣味を楽しめていないから。
- ・大学院期間なので仕方がないが、ハードワークになっているため

●その他

- ・(睡眠時間) 平均6時間睡眠を目標にしているため

今よりも充実させたい活動とその理由(修了生)

●学業・研究活動

- ・学位を生かせる環境を得たいから
- ・大学教員だが研究に割く時間を十分確保できていないため。
- ・自分がすべき研究を進めたいから。
- ・学位をとってもその後活かさせていないため
- ・スキルアップしたいため。学びたいことが多いため。
- ・これまで3つの学問を修めてきたが、4つめの学問に挑戦したいため
- ・論理的思考能力を向上させたい
- ・学びを深めたい
- ・自分の研究職としての実力を高めたい
- ・仕事で結果を残すため

●仕事

- ・仕事(経営者) 常に新しい技術の場にいたいから
- ・仕事(会社員) 仕事で成し遂げたいことがあるから
- ・仕事(会社員) 金銭面
- ・仕事(パート・アルバイト・兼業など) 社内で活用できないスキルを、社外で使いたい。

●家事労働

- ・家事労働(食事・洗濯・掃除など) 妻への家事負担が大きいから
- ・家事労働(育児・介護・サポートなど) ワンオペ育児のためゆとりがない
- ・子家事労働(育児・介護・サポートなど) 子供がかわいいから

●自由時間

- ・やることに追われる生活からの脱却
- ・人生の幅が広がると思うから
- ・十分な時間は創造性に欠かせない

●趣味・娯楽

- ・健康維持、心の充足のため
- ・大学院在学中犠牲にしたので
- ・これからの生活を楽しみたい。
- ・テニスが趣味だったが、育児に携わっているとなかなか時間がとれない
- ・年代的にも心身ともに健康なうちに、より興味のあることに時間を使っていきたい。
- ・楽しく行きたい
- ・なかなか取れる時間が少なかった

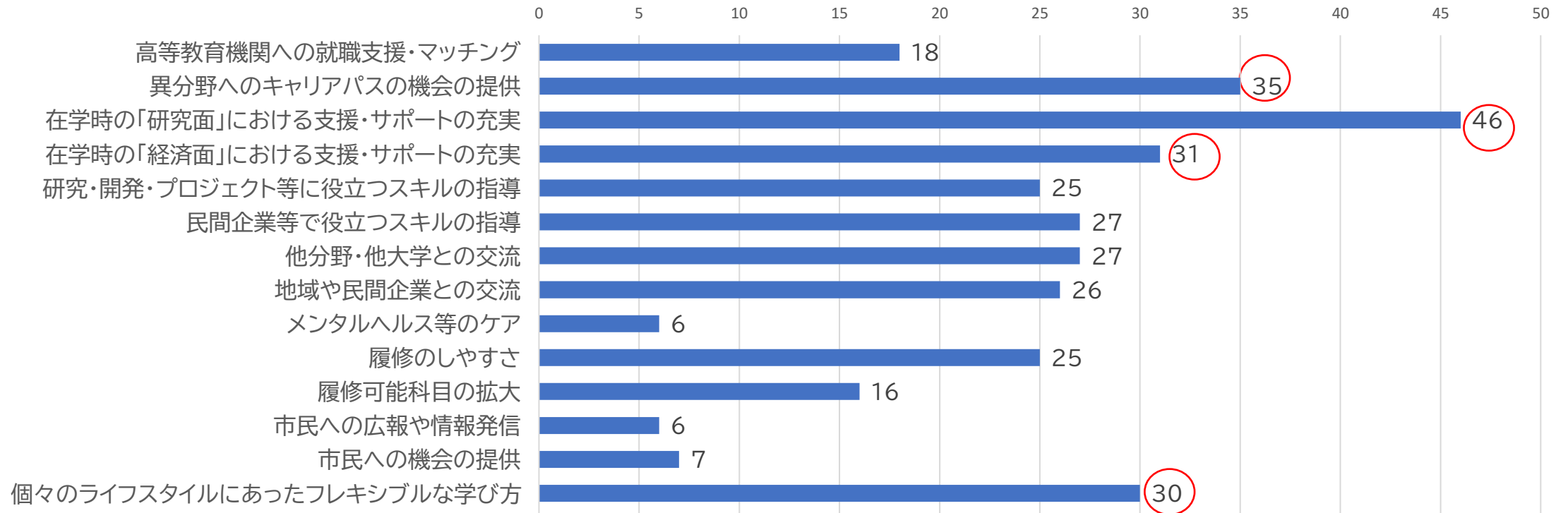
●その他

- ・(リスクリング) まだまだスキルを上げて社会の役に立ちたいから

これからの大学院教育システムに求めるものは？（複数回答可）

●これからの大学院教育システムに求めるもの(N=98)

単位：人

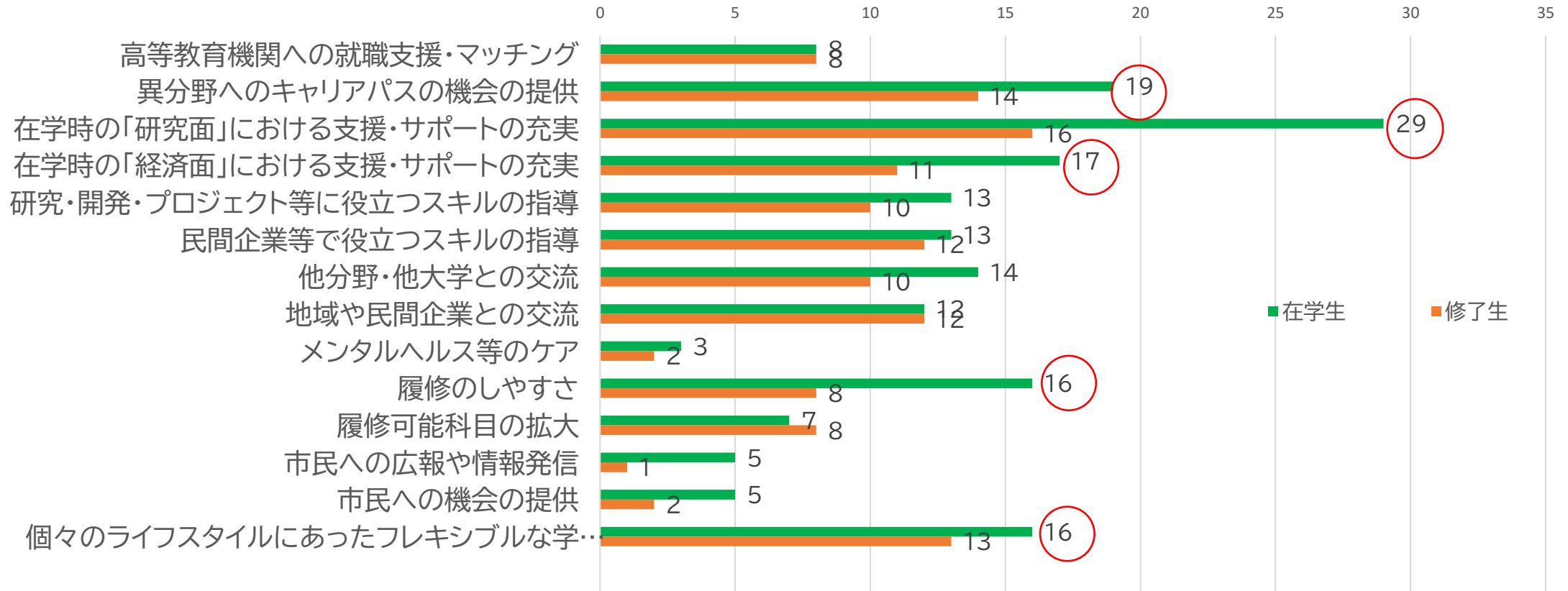


「在学時の「研究面」における支援・サポートの充実」が最多となっており、次いで「異分野へのキャリアパスの機会の提供」「在学時の「経済面」における支援・サポートの充実」「個人のライフスタイルにあったフレキシブルな学び方」と続いている。「高等教育機関への就職支援・マッチング」より「異分野へのキャリアパスの機会の提供」が多くなっていることから、キャリアアップだけでなくキャリアチェンジの志向がうかがえる。「研究・開発・プロジェクト等に役立つスキルの指導」「民間企業等で役立つスキルの指導」「他分野・他大学との交流」「地域や民間企業等との交流」など、大学での学びが多方面に開かれていくことを求めていると推察される。

これからの大学院教育システムに求めるものは？（複数回答可）

●これからの大学院教育システムに求めるもの

単位：人

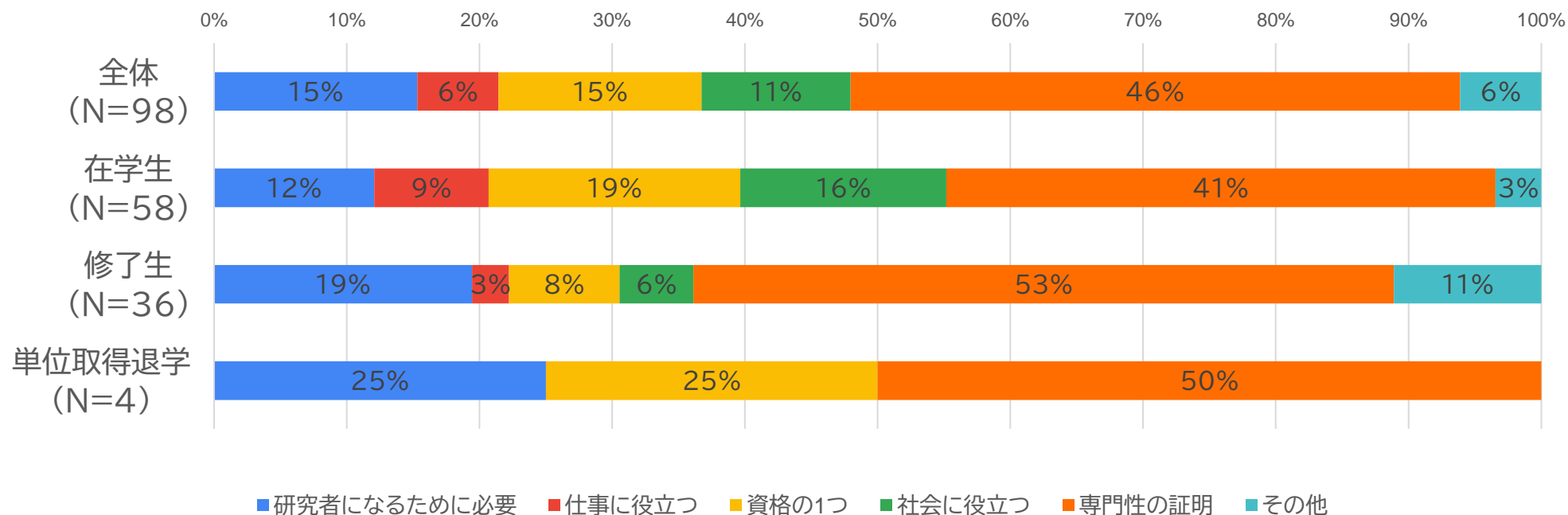


在学生会は「在学時の研究面／経済における支援・サポートの充実」「履修のしやすさ」「個々のライフスタイルにあったフレキシブルな学び方への対応」等、実際の研究や学び、手続きに関する回答が多い。

また「異分野へのキャリアパスの機会の提供」の回答も多く、在学中からの進路選択支援の必要性がうかがえる。

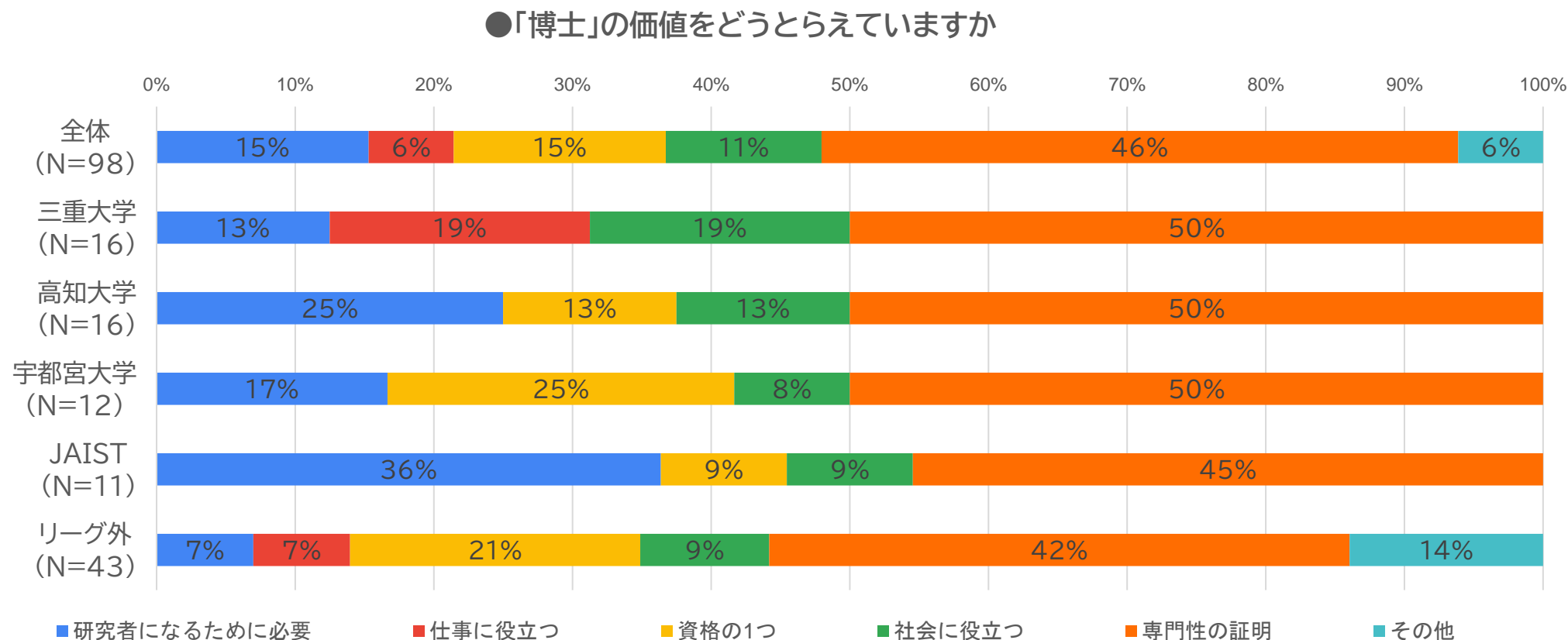
「博士」の価値をどうとらえていますか？

●「博士」の価値をどうとらえていますか



在学生／修了生別にみると、在学生よりも修了生のほうが「専門性の証明」と回答した割合が1割以上増えている。専門性が身に付いたことを、自身で実感できたということの表れとしてとらえられる。

「博士」の価値をどうとらえていますか？



回答者の約半数が「専門性の証明」ととらえている。高知大学、JAISTは次いで「研究者になるために必要」の回答が多く、宇都宮大学では「資格のひとつ」が多い。その他大学の回答はバラつきはあるものの、「資格のひとつ」の回答が多くなっている。三重大学は「仕事に役立つ」「社会に役立つ」の回答が2割程度ある一方、「資格のひとつ」の回答がない。社会に実装できる博士の育成に特化していることから、研究者になる選択をしなくても博士号を取得することの意味や価値が理解されていることが示唆されているのではないだろうか。

「博士」の価値は？

●【博士号取得者のみ回答】

あなたが【博士】を取得したことで周りに与えた影響や、周りからの味方・対応について変化があれば教えてください。(正負どちらも可)

【正の変化】

●専門性の証明になる／研究者として信用が得られた

- ・周囲から専門性があるとみられる／専門家として見てもらえる
- ・専門性とロジックがしっかりしていると見られている
- ・有識者として扱われる
- ・大学外の方から専門家として見られることが多くなった
- ・博士取得後、金融機関に転職したため、その肩書自体に意味を持つようになった。技術バックグラウンドであることが証明できる。
- ・研究職として自立性を持って働くには必須の資格であり、一定認められたが、それ以外の職種においてはそれほど必須ではなく、実際の業務におけるスキルの方が重要
- ・職場の環境であえて主張することはないので、その影響についてはわからないが、社会人となった息子においては、実社会の経験のある一定期間過ごした後、大学での専門的な知識の習得をしたいという考え方にはなっているようだ

●一目置かれる／地位・権威が高まった

- ・社会的地位がやや上がったと感じる。
- ・権威がついた
- ・サラリーマン相手には価値が伝わらないが、学会発表では博士号を持っていない教授達から一目置かれるようになった
- ・博士号を取得していることで国内外の仕事のパートナーから褒めていただく経験あり。
- ・PhD、MBAは希少性が高く、スタートアップの人と話をする際に、信用が得られやすい。
- ・努力出来る人間と志ある人間と周りは評価してると思います
- ・良い意味で発言内容に信頼性を与える影響がある

●特に海外からの評価が高い

- ・社外特に海外の研究者が同等に扱ってくれるようになった。
- ・一定の信用がある。ただし、国内取得者と海外取得者で、イメージが違う。海外の方が留学経験も含まれるため、上のイメージ
- ・対外的な交渉において、名刺にタイトルを書くように言われる。特に、技術的な議論が必要な場において、博士の肩書が必要となる場合がある(特に海外企業)。
- ・海外の方からは無条件で評価が高くなる、国内では相手に変なプレッシャーを与えてしまう
- ・私は海外の大学院で博士号取得予定(2025年2月)ですが、すでに、日本の大学の大学院から、関連分野の論文査読や審査などのお仕事の依頼があります。おそらくそれは、博士号を持っていることが専門性の証明になっているのではないのでしょうか

●視点・視座が変わった／自分自身の自信につながった

- ・ひとつの客観的な視点をもっていることの証明になる
- ・視座が高まった、意見や提言をするようになった、問題解決能力が高まった
- ・自分自身考え方が変わった
- ・大きく変わったことはありませんが、研究者として一人前にみられていることを自覚しなければならぬことや、ある意味、研究発表やアカデミックな場では、恥ずかしくない振る舞いをしなければならぬと感じるところがある。
- ・社会人で仕事をしながら3年間で博士課程を修了できたことや、それを周囲の人が評価してくれることに対して自分自身への自信につながった

●その他

- ・専門修士の方から博士になる方法をアドバイスする機会が増えました
- ・大学院での体験に興味を持たれるようです。
- ・転職の際、有利となった。
- ・専門性が高まる半面、拡張性が狭くなる

「博士」の価値は？

【変化なし／負の変化】

●変化なし

- ・医学博士を取得していますが、特に自分自身、あるいは周囲からも変化はありません
- ・なし。日本では悪影響のほうが大きい
- ・周りに与えた影響を感じることはありません
- ・特に取得したから変わることはありません
- ・職場では博士が当たり前なので、特に変わったと思わない
- ・業務上ではあまり変化はない
- ・まったくない(評価されない場にいるので)
- ・特に変化はないように思える。
- ・博士取得がグローバルで研究のスタートラインになるためあって当たり前で影響はほとんどない
- ・今のところは、「頑張ったね」の評価のみ。
- ・「がんばった」という証明程度

●日本では変わり者？

- ・日本ではまだまだ変わり者とみられる風潮がある。
- ・取得は研究という運転免許を手に入れた初心者に代わりない。にも関わらず、一人前のように見られる。または変人扱い。
- ・信用を得たが、嫉妬も買った

●男性社会で評価されない

- ・オフィシャルにはリスクリングを推奨している会社にも拘らず、実態として人事やキャリアマネジメントに全く考慮されず、「関係ない」と言われたことが残念だった。女性活躍推進の提唱に対しても、流行りではなく実力で希望するキャリアの獲得を目指したが、日本企業において、未だ男性社会と言う実態は変化できていないことを実感し、企業がリスクリングを正しく評価するよう促していただきたい。

●【正の変化】として

- ・専門性の証明になる／研究者として信用が得られた
 - ・一目置かれる／地位・権威が高まった
 - ・特に海外からの評価が高い
 - ・視点・視座が変わった／自分自身の自信につながった
- といった内容の回答が多い。特に研究や技術開発分野ではポジティブに捉えられていることがわかる。また、日本よりも海外において博士号の価値は大いに評価されている。

- 一方で、「変化なし／負の変化」の回答も少なくはなく日本社会では博士号を取得していることを適切に評価できない、評価する指標といえるものがないことが示唆されているのではないか。

まとめ

大学院教育に対する満足度

- 大学別では若干のバラつきがあるものの、全体として「大変満足」「満足」と回答した者が多かった
- 教員やゼミ生との関わりについての満足度では、指導教員との関わりの満足度は高いものの、他の教員や他の学生との関わりについては満足度が下がる傾向であった
- 「大変満足」「満足」と回答した者の自由回答では、その半数近くが指導教員・ゼミ生・仲間に関する内容であった
- 研究を中心とした大学院ほどゼミ生・他の教員・他の学生との関わりが「なかった／少なかった」と回答した割合が高かった

博士の価値から得られる満足度

- 大学院教育の満足度に関する自由回答と、博士を取得したことによる変化に関する自由回答に共通して見られた回答は以下のとおりである

大学院教育の満足度(主観)	博士号取得でみられた変化(客観)
専門性の向上	専門性の証明
目標の達成	周りからの見られ方
自信	信頼
物事の見方・視点の変化	

博士号取得者に対する評価は海外の方が高いといわれているが日本では信用・信頼といった評価が得られている可能性がある
一方、学位取得と連動した待遇の向上といった仕組みが存在しないため、取得の効果を感じにくい構造があると思われる

活動時間の使い方

- 修了生の時間の使い方に見られるように、**社会人は1日のおよそ3分の1(8時間)を「仕事」に費やしている**
- 1日の3分の1の時間を食事・入浴や睡眠時間に必要だとすると、残りの3分の1の時間を「学業・研究活動」と「家事労働」に振り分けることになる
- 仕事場と家と大学の移動時間を考慮すれば、「**学業・研究活動**」と「**家事労働**」に**費やせる時間の合計は6時間程度**である
- 一方進学生は1日の3分の1の時間を「学業・研究活動」に費やしており学位取得に同時間かかるとすると、取得年数は3-4倍必要となると予想される
- 社会人の博士後期課程の進学者を増やすためには**職場の理解や働き方等の改革が必要**である

博士の価値と能力

- 博士の価値について「専門性の証明」という回答が大半を占めるが、三重大学では「仕事に役立つ」「社会に役立つ」といった回答が一定数みられた。ここにみられるように、博士課程**在学中の学びによって博士の価値評価は変化していく可能性**がある
- 博士の修了生では活動時間を「学業・研究活動」に費やす時間の割合は在学生に比べ減少するが、6割は学業・研究を続けているととらえられる。ここから博士号取得者は**修了後も研究への意欲が高い**と考えられる
- これらのことから、博士号取得者は**多様な見方を受け入れ、考え続ける力**をもち、**発信できる**ととらえられる

博士人材の働き方

- 博士人材がその能力を活用して働くためには、博士の能力を活かす働き方が必要がある
- アカデミアで働く指標としてその専門性が重視されていたが、企業で働いている博士の修了生は全体的に能力のバランスがよいことから、博士課程で身につけた研究手法・思考プロセスは社会でも活かせる可能性がある
- 社会人博士においては、職場で生じた問題意識をもって進学することで、職場に戻った時に高い能力を発揮することができると考えられる